令和８年度青少年グローバル共感キャンプ　参加レポート

報告者　増本　なぎ

青少年グローバル共感キャンプで印象に残ったこと

特に印象に残っているのは、４ 日目に行ったアルテミュージアムです。アルテミュージアムではプロジェクターで、映像が映し出されていて、荒々しく打ち寄せる巨大な「波」や流れ落ちる「滝」、幾重にも広がる花々や、光の粒子が舞うロマンチックな空間「光と花の空間」が、迫力があり、とても新鮮で美しいと感じました。アルテミュージアムのテーマは「永遠の自然」だそうです。見て、聞いて、肌で感じることができたように思います。「花」「森」「波」「滝」のどれもすごいと思いました。

私は唐津に住んでいて、「唐津の花」「唐津の森（虹の松原）」「唐津の海の波」「唐津の滝（見返りの滝）」を知っていますが、本物を思い出しながらも違う感動を覚えました。以前のことであまり覚えてはいないけど、チームラボの「神様が集う森」を武雄に見に行ったことがあります。自然を使ったプロジェクションマッピングもすごいと思ったけど、それよりも感動したように思います。アルテミュージアムに行って技術が発達していると感じました。

青少年グローバル共感キャンプで学んだこと

相手の文化を大切に、自分の文化も大切にということを考えました。自分の国の文化と相手の国の文化は、似ていることもあれば違うとこも多いです。例えば、日本では茶碗を持って食事をするけど、韓国では茶碗を持って食べるのはマナー違反になります。箸を使うのは日本と同じでも、韓国では平べったい金属製の箸を使います。逆にお米を主食とする食文化は、日本も韓国も同じです。小麦を使ったパンを主食とする国々のことを考えれば、大きな共通点です。

自分の国（日本）の文化に誇りを持つ事はもちろん大切だけど、相手の国の文化を否定するのではなく、理解して尊重していく大切さを肌で感じました。そのためにはまず、知ることです。今回の研修で、文化を肌で感じることができたのは、自分の財産になりました。他にも少しだけですが韓国語を使って話すことができました。英語もちょっぴり話せていました。

今、話してと言われても自信がありませんが、研修の時には韓国語や英語を話している（少しだけですが）自分に驚きました。その気になれば、何とかなるものです。



やっぱり食事が・・・

これから、いかしたいこと

今回の研修で、自分の世界が広がったように思います。私は唐津が好きで、唐津の山・唐津の海・唐津の文化・唐津の友だちが好きだけど、同じように自分の国を大切にしている人たちがいるということを感じました。その人たちと気持ちを通じ合うためには、話し合うことが大切です。研修では、相手と言語が違って言葉が通じなくても、身振り手振りや表情で伝えることができるということを体験しました。これから、相手を理解するために「伝える」という姿勢を常に意識していこうと思います。とは言っても、語学が堪能であれば、さらに相手のことを深く理解できます。街中の看板の字が読めず困ったこともありました。読めていれば、さらに深く、相手の文化を理解できたと思います。

そこで、これから語学の勉強を励んでいきたいです。また、日本（自分）の常識が他国（相手）では非常識だったりするので、固定概念にとらわれず、柔軟で広い視点を持って行動していきたいです。たくさんのことを学びたい。強い思いです。

緊張から笑顔へ

１日目



４日目

